

『残念』 作：ポチ子

『残念』 作：ポチ子

私が大して苦勞もせずに入れたものを、

どうやっても手に入れられない人がいる。

屋根がある家も、

普通よりちよつとだけ馬鹿な頭も、

地につける足も、

そんなものと私が切り捨てられるものを、

最初から持っていない人もいるわけで。

残念な人生ね。

全部持っている私なら、

簡単に言ってしまうの。

でも言わないのは、

優しさなんかじゃないわ。

普段は考えてすらもない。

その人たちのこと。

生きてるんだか、死んでるのかも知らない。

いや、それもどうでもいいくらいだ。

口に出してないから、

許される。

そんなもんだね。